

## 第2回 川崎市多摩川プラン推進会議

### 議事要旨

日時：平成20年2月21日（木）13：00～14：45

場所：川崎市役所第3庁舎18F大会議室

#### ■議事要旨

##### 1. 開会

##### 2. 委員長あいさつ

##### 3. 趣旨説明・事務局紹介

##### 4. 議事 ー多摩川プランの推進についてー

・多摩川プランの推進について、以下のことを説明しました。

- (1) 多摩川プランの推進状況
- (2) NPO 法人多摩川エコミュージアムの活動報告
- (3) 京浜河川事務所の活動報告

##### 5. 意見交換

(山道委員)

- ・多摩川プランの理念はよいが、どう具体化していくかという中で、多摩川らしさというものを自らの手で復元していくというようなことが大切。このようなものが一つでもあると将来に期待が持てる。近年、少子化で学校の統廃合が進められている。川崎市の現状はよくわからないが、このような跡地に多摩川のグラウンドなどのスポーツ施設を移転し、河川敷の再配置・再整備を自然風景の復元という視点で進めて頂きたい。
- ・多摩川エコミュージアムは、全国のモデルにもなっている。「ふるさと資産・遺産の活用」については、多摩川リバーミュージアム構想にも位置づけされており、市民参加型の科学的な調査・研究をもっと進めるべきである。長島さんが取り組んでいる「散策こみち」などはよい例だ。調査・情報収集など市民が参加できる形で進めた方がよい。
- ・大師河原水防センターなどの施設については、運営するお金や人材をどう育てていくかなどが課題。9月の台風9号の洪水の時に、自転車で多摩川を見て回ったが、二ヶ領せせらぎ館が閉まっていた。このようなときこそ、二ヶ領せせらぎ館や水防センターなどを開館し、洪水のメカニズムや避難情報などについて情報提供したほうがよい。特に大師河原水防センターは水防のための施設であるので、日ごろの情報発信が大切であり、そのような運営が大切ではないか。

(進士委員長)

- ・川の怖さを実感するのは洪水時なので、川の怖さや水防の大切さを市民に理解してもらうよい機会だと思う。

- ・ 多摩川プランの推進について、大まかな事業の一覧表を作成して、○△×などで達成度を表示し、進捗状況を分かるようにするのはどうか。1枚で見せるようにすればわかりやすい。当初計画をクリアしたのかどうか分かる。また、年度予算についても、何が増えて、何が減ったかわかるとよい。進捗状況は、市、京浜河川事務所、NPOなどセクター別に作成し、うまく進んだ成功例、うまく進まなかった失敗例を各部署で検証し、改善策を推進会議で議論してはどうか。
- ・ このために、新たに会議の資料を作るのではなく、そのときある既存の資料を配布する程度でよい。

(福田委員)

- ・ 次回以降は、できるだけ資料を事前に送って頂きたい。
- ・ 私は、「川が良くなる＝水がきれいになる」と思っているが、水質調査はどのように行っているのか。結局、水がきれいにならないとダメだと思っているので。

(京浜河川事務所 柳澤 (関係者の出席))

- ・ 各基準点で定期的に行っている。結果はホームページで公開している。二ヶ領せせらぎ館にも置くようにする。

(青木委員)

- ・ BOD や COD だけではなく、表示方法として、生物などを利用し、どのような生物がいるのできれいだとかにすると分かりやすい。

(進士委員長)

- ・ 山道委員の意見は、今あるものを再整備していくのではなく、「自然な川を復元していく」といった理念を忘れてはいけないということ。自然にもどすということは哲学みたいなもので、多摩川プランではそのような趣旨を述べていても、重点エリアの整備計画になると、野球場やトイレはどうするかなど個別の話になってしまう。このような整備計画を検討するときでも常に意識するべきである。

(北島副委員長)

- ・ 水質については、BOD、CODという数値も大切だが、泳げるかどうかなど子供たちにも理解できる方法で公表すべき。泳げないなら泳げない理由を明らかにしておく必要がある。

(安原委員)

- ・ 広報活動をもっと積極的に行った方がよい。なぜなら、行政やNPOが様々な活動をしているのに、市民にはあまり認知されていない。市民が情報をつかめる機会を増やしてもらいたい。
- ・ 多摩川プランの進捗状況を管理するには、モニタリングすることになる。モニタリング手法をしっかりと確立し、事業を進めていくべき。
- ・ 川崎市、国、企業、NPOなどの事業実施主体を明確にした方がよい。川崎市、国、企業、NPOが何をやっているのか、わかるようにする必要がある。プロセスの可視

化とでもいうべきだろうか。何でこのような施策ができたのかわかるようにする必要がある。

(進士委員長)

- ・ 市のホームページで情報提供はどうなっているのか。「多摩川の今」というようなページはないのか。ないのであれば、市民参加が前提である多摩川プランにおいては、予算を確保して事業の実施内容などを市民に情報発信していくべき。資料にあるように、現在、「渡し場跡の碑」の設置を検討しているといったことを情報発信すればよい。

(青木委員)

- ・ 施策の進捗状況は数値化しにくいと思うが、事業が進んでいるのか、遅れているのかの状況を、要因を整理して把握しておけば分かりやすい。進まない理由が知りたいし、それを多摩川プラン推進会議で話し合いたい。
- ・ 昨年の台風による被害の整備費用と対策について教えていただきたい。河川敷の整備（洪水後の復旧等）の財政負担は、国と市でどのようになっているのか。

(事務局)

- ・ 国の管理地は国が整備し、市の占用地については市が整備している。

(亀田委員)

- ・ ホームレス対策をしっかりと行ってほしい。
- ・ 散歩する方が多いので、歩きやすいように草刈りの回数を増やしてほしい。
- ・ 高齢者のために、グランドゴルフを行える場所を確保してほしい。
- ・ 多摩川の利用者の中には、その他、現状維持でよいという意見や桜を植えてくれという意見もある。

(事務局)

- ・ ホームレスについては、富士見公園の施設に移ってもらえるように対応している。また、福祉課でも指導・パトロールを行っているが、なかなかうまくいかないのが現状なので、引き続き根気よく対処していく必要がある。
- ・ 草刈は、多摩川の管理をする直営の組織と外部委託との2本柱で取組んでおり、以前に比べ良くなっていると思う。
- ・ グランドゴルフについては、草地を多く整備していく予定なので、そこを利用して頂ければと思う。

(櫻木委員)

- ・ 菅からガス橋まで自転車で見てみた。ホームレスは住みよいところに住んでいると実感した。
- ・ 渡しの碑については、菅の渡し跡については、菅町会誌にあるように立派な石碑を建てている。このようなものは、市がやるのではなく、地域住民が自発的に整備することが望ましい。登戸の渡しなどは、柏屋のおやじなんか整備するのがよい。市民がやらないとだめ。

- ・ いろいろな施策を進めるのは良いが、箱物とかグランド整備に偏るのではなく、多摩川の川というものを大切にすることが必要。私も多摩川で泳いだことが、昭和 30 年代には体に油が付くようになり、だめになった。現在の子どもは、川で泳がず、プールで泳ぐ。水辺というものを大切に、水辺の保存についても考慮すべき。
- ・ 水質データは、環境局の公害部局にあるので、データをうまく使うことが必要。

(京浜河川事務所 柳澤 (関係者の出席))

- ・ 今後も、イベント等の活動を NPO 中心に行い、市民などと連携しながら、多摩川のよさをアピールしていきたい。
- ・ ニヶ領せせらぎ館は拠点施設として、充実させていきたい。
- ・ 多摩川全域で、ホームレスの数は 900 名以上いる。ホームレス自立支援法というものが、強制退去のようなことはできないが、年々増加しており、国としても何らかの対策を行ってほしい。

(山道委員)

- ・ 定住的なホームレスも多いようなので、何らかのルールを作る必要がある。

(進士委員長)

- ・ ホームレス対策は、福祉政策の問題であり、ホームレスのモラルの問題でもある。永遠の課題ではあるが、行政に頼るのではなく、市民主導の取り組みが大切ではないか。

(山道委員)

- ・ 泳ぐことについては、日野市の浅川で河川プールを作った。泳げるか泳げないかという判断は難しく、厚生労働省の水浴場の基準も大腸菌群数によるものだったりするが、「泳げるか、泳げないか」は「泳ぐか、泳がないか」という自分自身の意志によって決まるものだと思う。また、多摩川プランの目標は、市民が自由に泳げる川になることだと思うので、それに向けた施策展開が重要。裸にならないで泳ぐこともできる。

(北島副委員長)

- ・ まさに個人的な目標は、多摩川で水泳大会を開催し、大人と子どもと一緒に泳ぐことである。
- ・ 重点エリアの整備については、グランドなど人工的な川のイメージが強いが、自然を感じるイメージも必要ではないか。自然エリアの重点エリアもあっていい。

(進士委員長)

- ・ 多摩川においては自然再生が求められている。都市自然再生のモデルとして取り組み、それが多摩川から発信することを期待する。そのためには、市からの積極的な情報提供が必要で、多様な情報を市民に提供することが必要である。これらを市にお願いしたい。それによって、市民の賛同も得られるのではないか。

## 6. 閉会

以上